

伊波文子さん

1930(昭和5)年6月10日生まれ
所属 屋良国民学校高等科2年生

嶺井伸裕さん

1933(昭和8)年8月3日生まれ
所属 屋良国民学校



戦地 嘉手納町、読谷村

●1945(昭和20)年3月23日 艦砲射撃が始まる

嶺井: 川沿いの墓に入って。中飛行場(現・嘉手納基地)にはガソリンのドラム缶がある。これに火がつくと舞い上がる。大きな輪が天を焦がすような、それがぱたんと落ちてくると火の海。それを後ろに見ながら、追われる様に、またどっかを探して夜どおし辿りついたのが、久得(くどく)というところ、神殿の中に自然の大きな洞穴があって、兵隊が200名ぐらい。住民も200名ぐらい。28日にそこに行って。

伊波: そこに他から兵隊が来て、30人ぐらい。30日に来て1日の未明に出て行った。使えないもの、破けた靴とか、壊れた飯盒とか、水筒とか全部ほうっていった。夜が明けたらすぐに米軍が上陸。私たち住民は何も情報はなくて、未明に兵隊だけ出て行ってしまった。住民はのほほんとして。

●同年4月1日 沖縄本島に米軍上陸

伊波: お粥とか、じゅーしー(郷土料理の炊き込みご飯)を作るというんで火を炊いている所もあった。お茶を淹れている人もいた。私はお茶の水を汲みに行って、水を汲んでいる所に何か声が変わだねと思って、ガヤガヤガヤガヤしている、兵隊がまだこっちにいるんだねと思って、それにしても声は日本語ではなくて聞きなれない声だから、一目散に逃げて来たんですよ。「敵じゃないかね」って言ったら、おばあちゃんたちが、「馬鹿たれ、分からん話するな」って。しばらくしたら、ずるずるって米兵が入って来て、鉄砲構えてね。あれは住民だけだから良かったのね。

嶺井: その時に、ハワイ帰りのタクシさんという方が、前面に出て行って、「ここは住民だけだから」って。私は走って行って、ガマの奥の小さな堅穴から逃げようとしたら、鉄砲を持って見張っていました。

伊波: うちの父もそこから逃げようとして。あれ、いないねと思ったら上に行ってた。運良く、見つけたアメリカ人が撃たないでそのまま連れ戻した。もう少し悪い兵隊に会っていたら戦死。目の前に船はいっぱい来てたと思うんです。だけど住民にはそういう情報がないんで、まさか上陸しているとは思わない。入って来て初めてそうだったのかと。

嶺井: 米兵に引率されて、読谷村の読谷高校の東側に辿りついた時に、高台から見たら海の水が見えなかった。それぐらい軍艦がぎっしり。こんなたくさんではひとたまりもないと思った。皆をここに座らせて、水筒から水を出して僕に渡し、板チョコを渡し、僕は毒だと思ったから貰ってから後ろに捨てた。

そこから戦車が来るんですよ。「みな轢き殺されるんだよ」って、家族同士で「一固まりになりなさい」って、家族集まったら、素通りして行きよった。あら? 轢き殺すんじゃないかなって思ってた。

伊波: 情報がひとりも分からない。収容所に行くんですよってということも分からない。

山の中で、日本兵が田んぼの中にたくさん死んでいるのを見ました。200~300m行ったところには、夫婦で、お父さんがざるに荷物を担いだまま這ってるし、奥さんは頭にざるをのせたまま倒れたんだろう。二人とも私が通る道に死んでいるのを見て、あの時は鮮血がまだ流れていました。自分達もそういう運命にあるのかなと思ひながら。

嶺井: 鉄条網も、電話線もあった。黄色い線を張りながら戦争してる。まだ戦争が終わってないのにラジオの放送局を作ったですよ。

伊波: それから水缶、あれにちゃんと水を張って行く道々に置かれていたんですよ。自分たちのもあつたでしょうけど、捕虜にした人たちにもコップに注いであげよったから。ああ、アメリカは勝っているんだなと。

●楚辺(そべ)の収容所に

伊波: 民家が残っていて、そこに収容されたけど、その生活がまた大変だった。あんまり狭くて、座って寝た。年寄りとか病人とか子供は横にしないと。元気な人は家族皆だんごになって、膝をたてて頬杖をついて寝て、一日の食事がおにぎり2つ。

私たちが収容された100mぐらい離れたところに、あと1軒おうちが残ってた。そこに防空壕から、怪我した人、傷ついた人を搬送してきた。日本人だけでなく、アメリカ人の怪我人も。そこに看護手伝いをするため駆り出された。

夜になると、友軍の特攻隊も来るし、切り込み隊も。飛行機飛んでくるでしょ。高射砲でバンバンバンバンやるでしょ。夜だから見える。攻撃は出来ない。しないうちに撃墜される。艦砲射撃が酷かった。

嶺井: それでも夜間、攻撃機が、飛行機が1機とか2機とか来て、その時は手を叩きましたがね。でも撃ち落されて悲惨な情景でした。燃え上がって。爆弾落とせないうちに下から高射砲でやられて。

伊波: あんなして出なければいけなかったかなって可哀相でした。心が痛い。(取材日:2013年3月4日)